

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
<https://tohoku-saiko.jp/>
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create , TOHOKU!

2 0 2 5 年（令和 7 年）4 月 16 日 水曜日

無料

第155号

毎月発行

発行 2025 年（令和 7 年）4 月 16 日 水曜日

【当新聞発行責任者
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、71 歳の新人
歴史映像作家兼プロデュー
サー。3 作目の「古代製鉄の
埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】は越前文を日
崎上映像は延期。乗けて縄文を日
の大型新作は古く東北から
いえて4 興味。埋もれた東北を
文化研究。掘り出すことを
本を変えよう。



東北の海でいったい何が起きているのか？

サバも獲れない、磯焼けだらけで海藻もない
温暖化で魚種が変化しているだけではない！
では東北水産業生き残りにはどうすればいい？

東北の海で何か大きな変化が起きている

最近、東北の三陸沿岸部の水産関係者からの声をいくつか耳にした。

それらによれば、異常気象のせいかどうか不明だが、これまで三陸の海で獲れていたサバやサンマなどのな

じみの魚の漁獲量が極端に減少しているというのだ。そのせいで、漁港近くにある巨大な倉庫はガラガラで、稼働日数も大きく減っているという。

そんなところに、最近の電気料金の値上げが襲いかかってきて、漁獲量減少に電気料金上昇のダブルパンチで、商売が立ち行かないという嘆きの声である。

太平洋側でサバが獲れない

ついこの間まで、カルシウム豊富で骨折予防に良く、DHAも豊富ということで「サバ缶」が大人気だったが、そこに使われている国産サバに大異変が起きているこ

とを国民は知らない。

特に太平洋側での漁獲量が急激に減少しているというのである。

そうした状況を受け、水産庁は今年二月、漁業者などとも識者会議を開き、太平洋のマサバやゴマサバ、いわゆる「サバ類」について、今年の漁獲枠を去年の三十五万トン余りからおよそ七割から八割削減する二つの案を示したほどの激減ぶりである。

水産庁によれば、特に「マサバ」の成長が鈍化しているほか、親魚の資源量が大きく減っていることが減少の要因だという。

いずれにしても、取りすぎを防ぎ、漁獲量の安定につなげるねらいだという。他方、日本海や東シナ海でのサバの漁獲枠については、来シーズン、いまと大きくは変えないということなので、太平洋側、すなわち、東北の三陸側の海に限った削減ということになる。

三陸のあちこちの海で「磯焼け」発生

また、別のある漁業従事者からの声があった。

最近、久しぶりに海に出て貝類でも収穫しようとしたら、海に海藻が生えていないし、以前は獲れていた貝類の姿が見えない。代わりに、いままで見たことのない魚が泳いでいるとのこと。貝類や魚が獲れなくなっただけでなく、海そのものが大変化しているというのだ。

これは「磯焼け」という現象だが、水産庁によれば、「浅海の岩礁・転石域において、海藻の群落（藻場）が季節的消長や多少の経年変化の範囲を超えて著しく衰退または消失して貧植生状態となる現象である。磯焼けが発生すると、藻場の回復に長い年月を要し、磯根資源の減少や成長不良を招き、沿岸漁業に大きな影響を及ぼす。」ということだ。

また、この「磯焼け」は、三陸に限った現象ではなく、

三陸以外の東北、北海道沿岸部でも見られるという。いったい、海に何が起きているのだろうか？

国はなぜ大調査をしないのだろうか？

こうした事態が発生していることは当然ながら国も知っているはずだし、国内水産業の将来にとって重大な問題だということも知っているはずなのに、大調査をしたとか、するという話を耳にしたことはない。

そしてマスメディアも報道しない。だから、国民もこの大問題をよく知らない。

せいぜいのところ、温暖化によって南の魚が北上しているが、北では新しく登

場した南の魚の調理方法がよく分からないので困っているし、そのため魚に値段のつけようがない状況といった程度の知識しかない。

東北水産業の未来はない？

東北水産業には以前からいくつもの課題を抱えていることは当新聞で何度も指摘してきた。

漁業従事者の高齢化
漁業従事者の低報酬
漁業従事者の減少
個人の漁業従事者が大半なので思い切った設備投資が困難など

こうした従来からの課題群に、いま東北の海に起き

ている何か分からない大変化が加わることになる。

これから行われるかもしれない原因調査結果を待たずとも、東北水産業の将来は暗く、まったく光が見えない状況であることは関係者でなくとも理解できる。

東北水産業の伝統は、縄文時代以来連綿と続いてきたが、残念ながら、いよいよこの現代で途切れてしまうのだろうか？

それとも、この絶望的な状況を一举に打開できる方策を、この東北で考え出せるのであろうか？

日本を「漁業大国」と思っている人は時代遅れ

日本は世界に誇る漁業大国だと思っ

けっこう多いと思う。

そこで、衝撃的な統計を紹介しよう。

国連食糧農業機関（FAO）によると、二〇二一年における世界全体の漁業・養殖業の生産量は増え続けているが、日本の生産量は、増えるどころか減り続けており、前年比3%減の四百一十一万トンとなっている。

そして、ついに統計が残る一九五〇年以降で、初めてトップ10から陥落し、何と、世界の十一番目に落ちたのだ。

もう漁業大国だなど思い込むのも、ましてや他国にそうした誤った思い込みをベースに話すのも出来ない状況なのだ。

まことに残念な統計であ

三陸の「金華サバ」が激変！

太平洋側のサバが激減している！

去年の漁獲枠の35万トン余りから

一挙におよそ7割から8割削減すると

いう話まで出ているほどの激減ぶり

もう「金華サバ」は食べられない？

海にいったい何が起きているのか？



金華サバ缶・・・木の屋石巻水産



磯焼け・・・水産庁より

るが、もし東北水産業を立て直すというならば、この厳然たる事実を受け容れることから始めなければならぬだろう。

素直に漁業先進国に学ぼう！

思い起こせば、東日本大震災直後に、北欧から東北水産業の復興を支援する動きがあった。

しかし、東北水産業は結果的にその申し出を断った。これまでの東北水産業を守る決断を下した訳である。

あのとき、思い切って支援を受け容れ、北欧流の漁業、水産業に転換していたらと思うと残念でならない。

しかし、過去の失敗を嘆き続けていても、気分が滅入る一方で、そして何も生まない。

オール東北水産業が、今度は積極的に北欧流漁業水産業を学ぶというのはどうだろうか？

漁師は男性限定という思い込みを捨てる？

ここに一枚の写真がある。大きなノルウェーサーモンを両手で持つてにつこりと微笑む若い女性である。

彼女は、ノルウェー人女性のインゲボルグ・アウカソンさん、二十七歳。

写真の場所は、ノルウェー西部のフィヨルド地帯、エンデレセ湾に位置するサーモンの養殖場である。

そして世界第二の規模を誇るノルウェーサーモンの養殖業者レロイ社が所有する養殖場の船上であり、品質管理責任者であるインゲボルグさんが男性職員の中に

に違和感なく馴染んでいる。「男女平等先進国」、「お母さんにやさしい国」など、数々の国際的な世界ランキングの常連国として知られるノルウェーは、実は世界第二位の「水産物輸出大国」でもある。

日本の食卓でもノルウェーサーモンやサバが毎日消費されている。

ソルベルグさんが勤務を始めた一九八五〜九五年は、女性は彼女を含め二名しかいなかった。

しかし今では、全社員の30〜35%、養殖場など海上現場を除いた社内職員の50%、管理職トップ七人中三人は女性だという。

これを日本の漁業関係者に話して感想を聞きたい気持ち湧いてくる。

そして質問する。若い女性が船の上で働く姿について、皆さんは受け入れられ



ノルウェーでは女性漁師もいる・・・マイナビウーマンより

ますか？それともいやですか？

しかしながら、これらの衝撃的な方策を受け容れなければ東北水産業の復活は期待できないと思うが

いかがであろうか？

従来通り、漁師は男性に限ると言って人手不足を嘆くより、「漁業女子」を育成していく方が良いのではないかと思うのである。

■ 世界の水産物の漁獲量・生産量の上位国

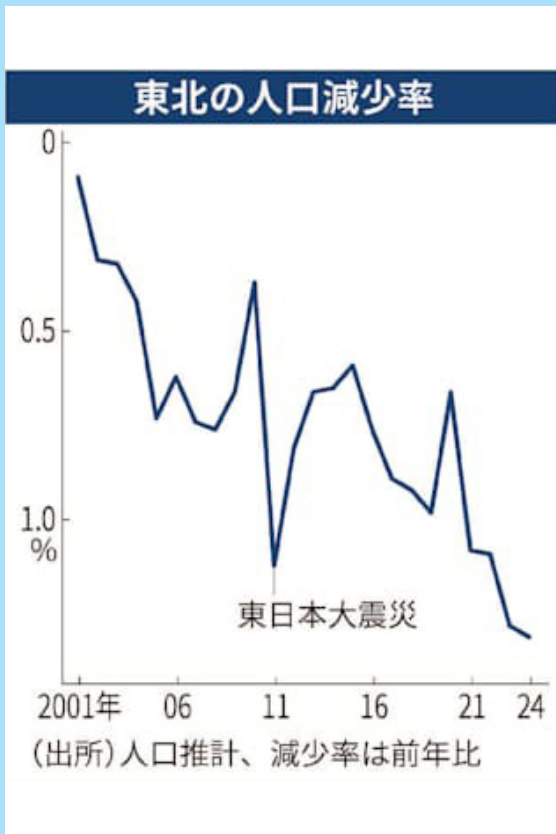
順位	国名	数量（トン）	前年比
1	中国	85,948,134	102%
2	インドネシア	21,813,413	100%
3	インド	14,433,205	109%
4	ベトナム	8,289,524	101%
5	ペルー	6,726,989	116%
6	ロシア	5,487,045	102%
7	アメリカ	4,731,048	100%
8	バングラデシュ	4,621,228	103%
9	ノルウェー	4,220,624	103%
10	フィリピン	4,114,594	97%
11	日本	4,114,570	97%

（出所）国連食糧農業機関（FAO）のデータを基に編集

TOYOKEIZAI ONLINE

いつまでも日本が世界の漁業大国だと思いついてる人の幻想を打ち砕く・・・東洋経済オンラインから

東北の人口減少に歯止めかからず一ワースト5に4県 オール東北で一丸となって対策は打たないのか？



東北の人口減少推移・・・日本経済新聞より

地方の人口減少率が拡大			
順位	都道府県	2024年の人口増減率	23年
1	東京	0.66%	0.34%
2	埼玉	0.01	▲0.08
3	神奈川	▲0.05	▲0.04
4	大阪	▲0.07	▲0.22
5	千葉	▲0.08	▲0.15
43	山形	▲1.49	▲1.42
44	高知	▲1.56	▲1.37
45	岩手	▲1.57	▲1.47
46	青森	▲1.66	▲1.66
47	秋田	▲1.87	▲1.75

（注）総務省資料に基づく、▲は減少

人口減少県のワースト5に4県・・・日本経済新聞より

総務省が十四日発表した人口推計で、二〇二四年十月一日時点で東北六県の人口は八百二十万九千人、二十三年から十万九千人減少。前年比の減少率は1.31%。〇一年以降で最も高い。

秋田の減少率が全国で最も大きくなるなど、東北三県の人口減少が著しい。

東北は〇〇年に九百八十万人の人口があったものの、減少に歯止めがかからない。

同様のペースで人口が減少すれば、二十六年にも八百万人を切る計算。東日本大震災だけが原因ではない。

また、人口に占める六十五歳以上の割合は各県ともに拡大。秋田県は36.6%、青森県は35.7%、山形県は35.6%。岩手県の35.4%、福島県の33.7%、宮城県の29.6%と続いた。

六県とも全国平均29.8%を超えた。秋田県は全国で

最も割合が大きかった。人口百万人超の仙台市を抱える宮城県も少子高齢化が進む。同県は今後五年間で三万四千人の外国人材を受け入れなければ、経済状況を維持できないという。

こんなとき、オール東北で何とかしようという動きは出て来ないものなのか？

同じ「船に乗っているというのに」いつそのことアメリカから大量の研究者・学生を呼び込んではどうか？

大谷選手の日々の活躍に接してようやく「日常」が戻った！

トラブル続きの昨年とは一変して、無事スタートできたことに感謝

大谷選手の活躍をTVで見られなかった約半年間はほんとに長かった。その季節は、まるで家の周囲を完全に雪に閉じ込められた生活のようだった。

日常のルーティンの重要部分がすっぽり抜け落ちて、熱中できる楽しみもなく、張り合いもなく、ワクワクするような躍動感もなく、じっと耐え忍ぶような生活だった。

それがやっと終わったのだ。大谷選手の活躍とともに歩む生活のスタートだ。開幕してからまだひと月あまりしか経っていないが、昨年のような「悲劇」も、今年の肩のケガの影響もなく、いまのところ今年も大きなケガもなく、無事にスタートできたのはほんとうによかった。

*
MLB開幕戦は三月十八日、東京ドーム開催。日本での六年ぶりの公式戦だった。

筆者もワクワクドキドキで放映にかじりついた。前評判もすごかったし、球場で観戦するには大変な額の入場料だったようだ。

ドジャース先発が山本投手、対するカブスが今永投手、この対戦もすごい。そして我が大谷選手もこの試合にめずらしく緊張したという。

MLBで活躍中の日本人選手たちが初戦で対する試合は圧巻だった。ほんと



開幕 2 戦目で 1 号ホームラン
・・・Yahoo ニュースより



今期初盗塁・・・Yahoo ニュースより

にすごいメンバー揃い。試合結果は、大谷選手は二本のヒット。勝利に貢献。順調なすべり出し。
*
翌日の第二戦も東京ドーム。この日は、大谷選手の初ホームランの日。筆者も大興奮！
ほんとにすごい選手とし

か言いようがない。日本で楽しみに待っていた大勢のファンの前で、そしてTVの日本中のファンの前で、いきなりホームランを打つというのはそうそう出来るものではない。
*
開幕三戦目は、アメリカにホームに戻っての開催。



ホーム開幕戦 2 号ホームラン
・・・ABEMA より



投球練習・・・NHK ニュースより

東京ドームのホームランはファンがホームランにしたものだど難癖をつけたアンチ大谷選手もいたが、その難癖を吹き飛ばすように、二試合連続ホームラン。もう何も言うことなし。
*
残る関心事は大谷「投手」のこと。慎重にも慎重なチ

ームのマネジメントにより、順調に準備が進められているようだ。
早く投球を見たいが、こはチームの方針に従おう。五月かなあ？とにかく楽しみでしかない。待ちきれ

大平山元遺跡の世界最古土器やっと国の重要文化財に指定

遅いよ！世界最古なんだよ！指定遅れは「西高東低」の証明？



大平山元遺跡産出の日本最古の土器破片
・・・文化遺産の世界より

青森県北西部の外ヶ浜町にある大平山元（おおだいやまもと）遺跡の出土品、世界最古の土器を含む石器や土器の破片など五百七十点が新たに国の重要文化財に指定されることになった。青森県によると大型の石斧が縄文時代特有の土器の破片とともに出土した国内最初の発見例で、土器の破片は東北アジアで最も古いものと位置づけられているということだ。

これら出土品は後期旧石器時代の後半から縄文時代の初めごろまでの間に、使われる道具が石器から土器に変わっていく様子やその製作技術がよくわかり、時代の移り変わりを研究する上で学術的な価値が高い重要な資料だとして、重要文化財に指定されたのだ。しかし、筆者はこの遺跡についても、出土した土器類の扱いについてもはなはだしく、ずっと怒っている。大分前になるが、世界最古の土器破片、縄文時代の開始を告げる土器を見に現地まで勇んで行ったが、近くに行ってもどこにあるかが分からない。目立つ看板がなく、地元の人に聞いてようやく分かったほど。そして、廃校になった分校のような教室に、目指す土器が展示されていた。それを見てがく然とした。ここまで「西高東低」なの

か。世界最古、縄文時代の開始を告げる土器がこのように扱いをされるほどに、東北は蔑まれてい

ることにに対し、青森県もオ

ール東北ももっと怒らな

ければならないと思う。

続「兵どもが夢」

道を整備することの意味

前々号で、「寺塔已下注文」の「清衡六郡を管領するの最初これを草創す」を引きながら、奥州藤原氏初代の清衡が最初にしたことの中尊寺を造ることであったと書いた。実は、その中尊寺を草創するよりもさらに先に清衡が行ったことがある。「寺塔已下注文」では、続けてこう述べている。「先ず白河関より外浜に至るまで、二十余箇日の行程なり。その路一町別に笠卒都婆を立て、その面に金色の阿弥陀像を図絵す。当国の中心を計り、山の頂上に於いて一基の塔を立つ」と。

つまり、清衡は中尊寺を建立するに当たり、まず現在の東北地方の南端の白河の関（現在の福島県白河市）から北端の外ヶ浜（現在の青森市）に至る道を整備した。「奥大道（おくたいどう）」と呼ばれるこの「東北縦貫道」に、一町（約一〇九メートル）毎に金色の阿弥陀如来

を描いた笠卒塔婆を立てると共に、その中間地点がどこかを計測して、その「奥大道」の中心に位置する山の頂上に一基の塔を立てた、というのである。この一基の塔こそが、中尊寺の始まりとなる塔である。すなわち、中尊寺は東北の中心に建てられた寺院なのである。

執筆者紹介

大友浩平
（おおともこうへい）
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagma5/



Facebook
https://www.facebook.com/kouchi.ootomo

に匹敵するほどの意味合いがあったのである。

そして、東北の北の端から南の端まで道を整備するということはどういうことか。それはその道がつなぐ地域を治めるということの何よりも強力な宣言である。清衡が平泉に拠点を移すに当たり、最初の最初に東北を貫く道を整備したことに、そのような大きく二つの意味があったわけである。

東北を実質的な独立国に

平泉に中尊寺を建立したと書いたが、それは簡単なことではなかったはずである。平泉の北に衣川という川が流れているが、この衣川から南が陸奥国府の治める地域、衣川から北が鎮守府の治める奥六郡のある、いわば特別軍管区だった。この時代に先立つ一〇世紀半ばには鎮守府は形骸化し、在地の豪族である安倍氏が実質的に鎮守府の権威・権力を代行するようになっていた。いわば朝廷の支配が届きにくい区域となっていたわけである。その権威・権力を継承した清衡ではあるが、それはあくまで衣川から北の話であって、陸奥国府が治める衣川より南については清衡の権威・権力は及ばない、というのが実際のところだったはずである。

ところが、清衡は本拠地を、その衣川を南に越えた平泉に定めた。陸奥国府の治める地域に進出したのである。この意味は大きい。

いつたいどのようなにしてそれが可能になったのか。

後三年の役が終わってから四年後の一〇九一年に、清衡が関白藤原師実（馬二疋を献上したと記録に残っている。馬だけであつたはずがない。当然ながら、陸奥特産の砂金も一緒に献上したことだろう。こうして中央政界に接近し、政治工作を行い、着々と陸奥出羽両国における実効支配を公認してもらえよう働き掛けていったのである。

具体的には、陸奥国押領使への就任である。押領使というのは、地方の治安維持を請け負った役職であり、兵を率いて反乱の鎮圧や凶賊の追討を行った。これに任じられたことで、清衡は陸奥国内で公に武力行使ができるようになった。

中尊寺もただの寺院ではない。境内にあった鎮護国家大伽藍（一区が畿内以外に建立されたのは中尊寺が初めてという、当時としては画期的な出来事だった。また、中尊寺は鳥羽法皇の御願寺でもあった。清衡の並々ならぬ働き掛けなしには、これらのことは到底不可能だったに違いない。

こうして清衡は、陸奥出羽両国、今の東北地方全域の実効支配を進めていったのである。清衡の時代には、中央の権威によって裏打ちされたものではあったが、二代基衡、三代秀衡と代が進むにつれ、半ば独立王国的な色合いが強めていく。三代秀衡が鎮守府將軍、

次いで現地の豪族が任命されることなどあり得なかった陸奥守に任命され、名実共に東北の統治者となる。この際右大臣九条兼実が、自身の日記「玉葉」に「天下の恥、何事かこれに如かんや。悲しむべし、悲しむべし」と記しているが、これに對し「件の国、もとより大略虜略。しかれば拝任、何事かあらんや」とも述べられており、陸奥国は実質的に秀衡が支配している国という認識が中央にあったことが窺える。四代泰衡の代に、朝廷から義経追討の宣旨が出されるが、そこには「陸奥出羽の両州を虜掠し」、「奥州出羽の両国を掠奪し」と、東北全域を実効支配していることを指摘する文言が何度も出てきている。

決して鎌倉の下にはあらず

こうして東北全域を、中央の干渉が及ばないエリアとした奥州藤原氏だが、そこに立ちはだかったのが鎌倉の源頼朝である。元々安倍氏が滅んだ前九年の役も、清原氏が滅んだ後三年の役も、源氏が東北に支配領域を拡張そうとして起こした戦だった。しかし、どちらの戦でも結果的に源氏の思惑通りにはならなかった。それだけに源氏にとつて東北は遺恨の地となったのである。後に鎌倉幕府の公文書「吾妻鏡」が、「義経と言い、泰衡と言い、さしたる朝敵ではなかった。ただ私的な宿意で滅ぼしたのだ」と述懐

している通りで、源氏代々の念願を叶えたのが頼朝だったわけである。

奥州藤原氏が滅ぼされた文治五年奥州合戦に際して、頼朝が求めた奥州藤原氏討伐の宣旨を、朝廷は渋ってなかなか発出しなかった。困った頼朝は家臣の大庭景能にどうしたものかと尋ねた。景能は、「軍中においては、將軍の命令を聞き、遠く離れた天子の詔は聴かないと言われます。既に朝廷へは申し上げているので、いつでも返事を待つ必要はないでしょう。それに、泰衡は先祖代々の御家人の跡を継いでいるにすぎません。朝廷からの宣旨をもらえなくても、罰を加えるのに何ほどのことがありましようか」と答え、我が意を得たりと頼朝は奥州に進軍することを決断した。ここでは、源氏の下に奥州藤原氏がいるという源氏側の認識がある。

これを否定し、真つ向から異を唱えたのが、奥州藤原氏側の由利八郎である。その名から、現在の秋田県由利本荘市近辺を本拠地としていた豪族だったと推測されるが、合戦で捕虜となつて頼朝の陣に連れてこられた。名のある者だったらしく、誰が捕らえたかで口論になつていて、頼朝は梶原景時に八郎を尋問させた。

景時は立つたまま由利に向かつて、「お前は、泰衡の家の中でも、名のある武将であらうから、無理に取り繕う必要はない。正しいことだけ言えばよい。何色の鎧

を着た者がお前を生け捕つたのだ」と尋ねた。八郎は怒って答えた。「お前は、頼朝殿の家来か。今のは分を弁えない物言いだ。故御館は、秀郷將軍直系の正統な子孫だ。三代は鎮守府將軍を拝命した家系だ。お前の主人でさえ、そのような物言いはいできないはずだ。ましてや、お前と私は同格の身分ではないか。どちらが上下ということはない。運が無くて囚人となるのは勇士の常だ。鎌倉殿の家来だと言つて、そのような奇怪な態度をされるいわれはない。ましてや質問になど答える必要もない」と。

景時は、顔を真っ赤にして頼朝の前に行つて、「あの男は悪口ばかり言つていてちゃんと説明をしないので、糾明のしようがありません」と言つた。頼朝は代わりに畠山重忠に質問させた。

内では、貴殿は武士としての勇敢の誉れがあり、その名をかねて聞かれています。それで勇士達も手柄を立てたいと、貴殿を捕えたと互いに主張し合っているのです。それで彼らの手柄のあるなしも決まるのです。何色の鎧を着た者に生け捕られたのか、どうか話してください」と言つたので、八郎も言つた。「貴殿は畠山殿ですか。しつかり礼儀を心得ておられ、先ほどの男の奇怪な態度とは似ても似つきませんので、きちんと申し上げましょう。黒系威しの鎧を着て鹿毛の馬に乗った人が、私を捕まえて馬から引きずり落としました。その後で追つてきた者はたくさんいて見分けがつきませんでした」と。

それで誰が八郎を捕らえたかがはつきりした。頼朝が「その男の言っていることから心中を察すると勇敢な者であらう。聞いてみたいことがあるのでこへ連れてくるように」と言つた。

幕を上げて頼朝が八郎に「そなたの主人泰衡は、その威勢を陸奥出羽の両国に振るつていたので、罰を加えるのは大変な事かと思つたが、まともな部下がいなかったようで、河田次郎一人に殺されてしまった。両国を管領して、十七万騎の大將なのに、百日も支えられず、わずか二十日で一族が滅びてしまった。言うほどのこともなかった」と言う八郎は「まともな部下も多少はいましたが、若い武將はあちこちの要害に派遣され、年

老いた武將は思うように動けずやむを得ず自殺してしまいました。私のような不肖の輩は生け捕られてしまったので最後までお供ができませんでした。そもそも、故義朝殿は、東海道十五カ国を管領しておられました

が、平治の乱で二日も支えられず没落しました。数万騎の大將であつても、長田庄司のために簡単に殺されてしまいました。昔と今と甲乙つけがたいではありませんか。泰衡が管領していたのは、わずか二カ国の勇士です。それでも数十日の間、賢明なるあなたを悩ませました。簡単に不覚を取つたなどと言わないでいただきたい。」

頼朝は、それ以上言うべき言葉を失くして幕を下げさせた。そして、八郎を重忠に預からせ、大事に扱うようにと命じたという。

ここで八郎が主張したのは、奥州藤原氏と源氏とは対等だということである。その言いつ分は頼朝も認めざるを得なかった。ただ、頼朝のすこいところは、ぐうの音も出ない目に遭わされた八郎を殺すことなく、逆に大事にするよう命じたところで、さすがの人物であつたことが窺える。

こうして奥州藤原氏の「兵の夢」は潰えたが、この間の百年は、いまだ東北の歴史の中で燦然と光を放っているのである。

丘の森の「大学城」散歩 奥州より望む知の独立の事

『いとみち』（越谷オサム著・二〇一一年）という小説がある。青森県北津軽郡の板柳町出身、祖母譲りの見事な津軽三味線の腕前と強烈な津軽訛りを持つ少女・いとが青森市内のメイド喫茶でアルバイトを始める、というインパクトある話で、数年前には実際に青森県出身の女優をいと役に据えて映画化されている。

私はその三巻目を、仙台旧城下の西部、かの青葉山の奥地に広がる東北大学工学部構内を散歩中、よく立ち寄る所謂ブックカフェで見つけた。何故、大学内の書店にこのような小説本が置いてあったか？実は、主人公・いとが青森市含む県

の再興と発展を夢見、その為の方法を探る為に東北大学工学部を受験、見事合格を果たすのである―本稿では、我が仙台における「原付」オートバイでの散歩コース・東北大学を巡っての想い、そのあれこれを綴っていきたく思う。

※

私の大学構内散歩とは、東京在住時代からの趣味のようなもので、これは所謂大正浪漫というのか、古風なものへの趣向が高じて特に古の建築物を観て回る事を好んだ事による。



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始める東北好きである。

当初、自身が上京したての九〇年代はより小規模で庶民的な東洋大学や明治大学をよく歩いたが、これらはやがて古い建物をことごとく撤廃して高層ビルに建て直してしまった。私立大学で古い建物を維持するのは早稲田・慶応など一部の難関校や立教・明治学院などミッション系の学校に限られる印象だが、東京大学や一橋大学といった特に上位国立大学のそうした建造物の残存率は圧倒的であり札幌に一時期在住した時期以来は北海道大学の建造物群と自然景観の調和が素晴らしく、絶好の散策コースになったものである。

しかし、仙台に来てからは事情が多少変わった。無

心の本拠地である片平キャンパスや近隣のミッション系である東北学院大学の構内で伝統的な建造物を観覧する事はできるが、むしろ私は何故か旧城下西部の丘陵地・青葉山にその大半を移管されたという東北大学の校舎群に興味を引かれたのである。嘗て仙台城が築かれた地として知られる青葉山、その最奥部の森林を掻き分けて広がるのは、最早大正浪漫とはかけ離れたまだ真新しい理工学系学部の特徴は同じ国立大学の理工学系である東工大（東京工業大学、現・東京科学大学）などにも共通である。

東工大といえば先日、札幌にいた甥が当大学の「工学院」（他大学で言うところの工学部）に合格し、東京で独り暮らしを始めたようである。工学系では決して引けを取らないであろう東北大学を甥が視野に入れたかったらしい事に、現地元民としては少しばかり寂しさを覚えたのも確かであるが、甥が大学名というブランドではなく、純粹に学問・研究を目的として大学を選択したという事がよく理解でき（東工大はその圧倒的实力に比して一般の知名度が決して高いとは言えない）、叔父として誇らし

くも感じたのである。それはさておき、その東京をどうの昔に後にした私にとつては、地域の大学こそが関心事である―とは言え、唯の癡癡なるこの身の欲するは前述のブックカフェで通常の書店とは一風変わった選書の本棚を物色しては珈琲を飲み、「自動車の過去・未来館」で古の名車・T型及びA型フォードを眺め、近隣の理学部敷地内にある自然史標本館のコンパクトながら豊富な博物資料を観て巡るといった事に過ぎないが、東北大学では図書館も一般が利用可能であり、またやはり一般参加可能な公開討論会「哲学カフェ」（前世紀パリで始まり、国内では大阪大学が開催後、全国に波及した）やサイエンスカフェ、ほか各公開講座が学内外で練り広げられるなど随分と積極的に知的エンターテインメントを生み出す土壌となりつつある印象を抱かせる。

ただ、東北大学は現在本部研究棟区域及び医学関連学部以外は完全に青葉山に移転し、かつての膝元―即ち学生街を失った状態でもある。一体何故、東北大学は敢えて街を捨て、隔絶された丘陵地の森の中へと移ったのか―その経緯も追ってみたい。

よく知られるように東北大学は東京大学、京都大学に次ぐ全国三番目のかつての帝国大学として明治期に設立されたが、実際の大学設置は政府の財政難の為に容易に進まず、まず先に当時の札幌農学校と新設予定の理科大学と併せて北海道

帝国大学とする案が浮上、だがこれに東北選出の代議士が反発、更に旧南部藩出身で当時の内務大臣である原敬が取り付けた鉱山事業者・古河家（足尾銅山事件で有名）の寄付により政府が動き、勅令交付に漕ぎ着ける。結果、新設の理科大学は仙台に置き、元・札幌農学校の農科大学（書くまでもなく、後の北海道帝国大学）と併せて東北帝国大学とする―という、かなりややこしい折衷案に落ち着くのであった・・とは言え民間と宮城県の寄付のみで結果的に国費なしで設立されたという帝国大学らしからぬ経緯は、いかにも東北らしいという他なく、またこうした出自からか隠しきれぬ反骨の気風が中央との軋轢を生む事もあった。

東北大学の標語に掲げられる「門戸開放」は元々は開学当初の学生数確保の為の施策であつたがこれも結果的に文部省の圧力まで受ける。元々東北大学は敢えて街を捨て、隔絶された丘陵地の森の中へと移ったのか―その経緯も追ってみたい。



キツネの関所



ニホンカモシカ親子



紅梅の蕾



ヤマシャクヤクの芽



今年は見に行けるかなあ～

シリーズ 遠野の自然
「遠野の清明」
遠野 1000 景より

トランプ大統領が発した
ほぼあらゆる国に対する関
税引上げ発表とその導入か
ら、世界経済が大混乱を起
こしている。
世界中の多くの人を一方
的に困らせる政策はいずれ
大きなしっぺ返しに遭遇す
ることだろう。
しかし、残念だが、いま
は「気まぐれ」をだれも制
止できないから、黙って成
り行きを見守るしかない。
こうした一方で、いま遠
野は厳しい冬を耐えて、
春を迎えている。それに連
れて、花々も咲き、動物も
動き始めた。順調な運行だ。
こうした世界を見るにつ
け、人間の成すことは時に
大きく間違ふものだと思っ
た。怒りとともに実感する。



モクレンの蕾



人面石



次郎石

新シリーズ【東北を再発見する旅】…⑪ 「アラハバキ神社」その②

宮城県北部のアラハバキ神社、祀られているのは鉄の神か？



アラハバキ神社説明板

筆者が知っていて、訪ねたことがあるもう一つのアラハバキ神社は宮城県北部の岩出山地区にあった。映像作家としての筆者の第二作目の作品の撮影でたまたま、地元出演者の案内でそこを訪ねたのだった。前回取り上げた宮城県多賀城にあるアラハバキ神社以外のアラハバキ神社を探したいと思っていたので、内心では小躍りしたい気分だった。

ただ、入口にある表示棒を見たら、なんと「みずいぼなおす荒脛巾さま」と書いてあり非常にがっかりした。近くにあった、もつと詳しい説明のある説明板（荒脛巾神社縁起）を見たら、さっきの落胆を一举に打ち消すようなものすごい記述があった。

祭神・・・「祖神として天地、水の三神を基とし、日輪（日・月星）を父なる神、万物を育む地、水（山海）を母なる神とする、自然信仰で、二千年に及んで鎮座する産土（ウブスナ）神であります」とある。これにまず驚いてしまった。

由来・・・「古代先住民（荒吐―アラバキ族、荒脛巾―アラハバキ族）の祖神、守護神として、祀ったものである文献によると、古代の東北、関東の地に六百余社数え、平安期アラバキ中心王侯に南部衣川、安倍氏が後裔といわれる前九年の役後、改神或いは合祀の憂目にあり、現在県内に残る荒脛巾社は当社他数社の鎮座が見られます」。

ということは、古代の東北や関東にはアラハバキ神社が六百以上あって、アラハバキ神が広く信仰されていたということではないだろうか？

護神として祀ったものと推定される」とある。もうここまで来るとたまたまではない。すなわち、これらの説が正しいとすると、アラハバキ族の歴史は二千年以上あり、この近辺に暮らしていたということになる。

さらに、神社の本殿の後ろ側にある小さな祠（ほこら）には、まず、鉄製の小さな鳥居があり、穴が開いてた石がたくさん供えてあった。前述の映像出演者の話によれば、これらの石は鉄を象徴しており、このアラハバキ神社は鉄を祀った神社だということだ。

筆者の頭のなかをさまざまに言葉とその言葉が想起させるイメージが駆け巡っていた。

アラハバキ神社、この神社は二千年に及んで鎮座する産土神信仰の社であり、また自然信仰の社。



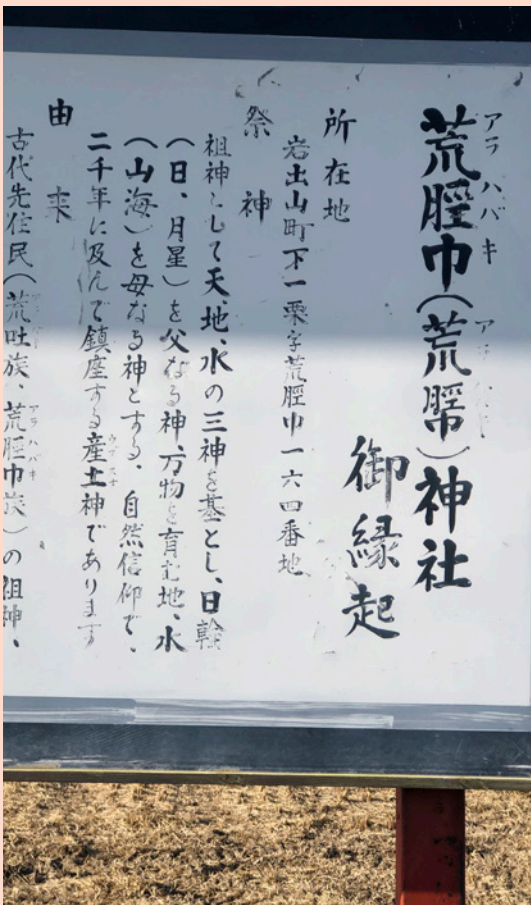
アラハバキ神社



水いぼの神？



神社裏には穴の開いた石が供えてあった



説明板拡大図



写真で
お伝えする
東北の風景

**「岩手の
シダレザクラ」**

写真撮影
尾崎匠

